

公表

児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名 ぐんぐん千代崎

公表日 令和 7 年 4 月 25 日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	0	児童が安心して過ごせる環境を整えるため、既定基準の2倍以上の広さを確保した支援室を用意しており、ゆとりのある空間で活動ができるようにしている。加えて、児童の特性に応じた個別支援室も設置しており、落ち着いて過ごせる空間づくりに努めている。	広さは十分に確保されているが、活動内容や児童の特性によっては、空間の使い方に工夫が必要な場面もある。今後はスペースの柔軟な活用と、より機能的な環境整備に取り組んでいくことが課題である。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	2	職員の配置数は法的基準を満たしており、日々の支援が安全かつ安定して提供できるような体制を整えている。特に支援が必要な時間帯や場を事前に想定し、役割分担や声かけによって対応の偏りを減らす工夫を行っている。	送迎の添乗時や突発的な支援が必要な場面では、一時的に支援体制が手薄になることがある。今後は日々の流れの見直しや支援記録の活用に加え、職員一人ひとりの支援スキルの向上にも取り組むことで、支援の質を安定して保つ体制づくりが課題である。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	0	段差の少ない構造で安全面や身体的配慮にも努めている。	視覚的なサインの強化や音・照明など感覚的な配慮を含め、さらなる環境改善が今後の課題である。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	1	清掃や換気を徹底し、こどもたちが安心して過ごせる清潔な環境づくりに努めている。	視覚的な区分けやスペースの有効活用など、より落ち着いて過ごせる環境づくりに向けた工夫が必要である。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	0	支援室とは別に個別の部屋を設けており、学習に集中したい時やクールダウンが必要な場面で活用している。全体として十分なスペースを確保しており、児童の状態や希望に応じて静かに過ごせる環境づくりに努めている。	個別の空間を活用する際に職員の配置が一時的に偏ることがあるため、見守り体制や支援の流れに工夫が必要な場面もある。今後は支援の質を保ちながら、児童が安心して個別に過ごせる体制づくりをさらに充実させていくことが課題である。
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加しているか。	7	0	日々のミーティングを通じて、支援内容の振り返りや課題の共有を行い、業務改善に向けた意見交換を行っている。	記録や進捗の見える化を進め、組織的な業務改善へつなげる仕組みづくりが課題である。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1	集計後にミーティングを行い改善に繋げている。また、必要に応じ保護者に説明を行う。	配布方法や設問の工夫を行い、より多くの保護者の声を聞き取り、改善に活かせる仕組みづくりを検討していく。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	日々のミーティングや個別の相談、定期的な面談を通じて職員の意見や気づきを聞き取る機会を設けている。	フィードバックの方法を工夫し、意見が活かされていることを実感できる仕組みの整備が課題である。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	5	現在、外部評価の実施には至っていないが、日々の自己評価や職員からの意見をもとに、支援内容や運営体制の見直しに取り組んでいる。	自事業所だけでは気づきにくい課題の把握に限界がある。今後は第三者評価の導入を検討し、より質の高い支援・運営体制づくりを目指していくことが課題である。
10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	0	定期的に事業所内研修を実施し、支援に必要な知識や技術の習得を図っている。外部の研修についても、参加可能な機会を見つけて積極的に参加できるよう配慮している。	今後は研修記録や動画視聴の活用、共有ツールの整備などにより、継続的に学びを深める体制づくりが課題である。	
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	0	支援プログラムを作成し、保護者が内容を確認できるようホームページ等で公表している。季節や子どもたちの様子に合わせて内容を見直ししながら、わかりやすく開示することを心がけている。	プログラムの内容が一部保護者にとってわかりにくい場合もあるため、視覚的に伝わりやすい形式や説明の工夫が必要である。今後は、活動の意図やねらいもあわせて伝える工夫を進めていくことが課題である。
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7	0	個別支援計画の作成にあたり、6か月に1回以上の頻度でアセスメントとモニタリングを実施し、保護者との面談を通じてニーズや課題を丁寧に把握している。児童の特性や生活状況に応じた目標設定を行い、適切な支援計画を作成するよう努めている。	アセスメントの内容が職員間で共有しきれない場合があり、情報の一貫性に課題が残ることがある。今後は記録の精度向上とチーム内での確認体制の強化により、より質の高い支援計画の作成につなげていく必要がある。
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	0	日々関わっている職員全員で意見を出し合い、子どもの特性や変化を共有しながら検討を行っている。チーム全体で共通理解を深め、こどもにとって最善の支援となるよう努めている。	意見交換の場はあるものの、業務の都合で全員が十分に関われないケースもある。今後は記録や共有方法を工夫し、支援方針への一体感がさらに高まるような環境づくりが課題である。
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	0	作成した個別支援計画は全職員で共有し、支援現場でもいつでも確認できるようにしている。計画に沿った支援が行えるよう、日々のやりとりの中でも意識して対応することを心がけている。	日々の業務の中で支援内容が計画から離れてしまうことがないよう、定期的に振り返る仕組みや記録の活用が課題である。今後は、より計画を意識しやすい環境づくりと、個別支援の質の向上を目指していく。

	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	0	日々の行動観察を通してこどもの変化や適応状況を記録し、支援の見直しに活かしている。より客観的な視点で支援計画に反映するよう努めている。	インフォーマルな観察に比べ、フォーマルなアセスメントの活用は限られており、継続的な評価や記録方法にばらつきがある。今後は支援の質を高めるため、評価の記録や職員間の共通理解を深める仕組みづくりが課題である。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	0	児童発達支援ガイドラインに基づき、本人支援・家族支援・移行支援・地域支援の4つの視点を意識しながら支援計画を作成している。	視点ごとのチェック体制を強化し、抜け漏れのない計画づくりを進めていくことが課題である。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	0	活動内容は定期的なミーティングで全職員が意見を出し合いながら立案している。子どもたちの興味関心や発達段階を踏まえ、季節や行事に応じたプログラムを職員間で協力して計画している。	週単位・月単位での共有体制を強化し、より計画的で質の高いプログラム提供につなげていくことが課題である。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	0	事業所全体で活動内容の検討や振り返りを行い、プログラムが固定化しないように工夫している。職員間でアイデアを出し合い、常勤・非常勤を問わず幅広い視点を取り入れて、子どもたちの興味や季節に応じた活動を計画している。	実施可能な内容に限られる中で、どうしても同じような活動が続くこともある。今後はこどもの反応を振り返りながらプログラムの質を高め、創造的な取り組みを取り入れていく工夫が必要である。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7	0	児童の特性やその日の状態に応じて、無理のない範囲で個別活動と集団活動を組み合わせる支援を行っている。個別支援計画には、それぞれに適した活動内容を盛り込み、集団の中でも安心して過ごせるよう配慮している。	集団活動への参加が難しい子どもに対して、柔軟な対応はしているものの、スタッフの配置や時間の調整が課題となる場合がある。今後は、より個別のニーズに合った活動構成や環境づくりに向けた工夫が求められる。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	0	毎日朝礼を実施し、その日の支援内容や役割分担、配慮が必要な児童について職員間で確認・共有している。新たな気づきや連携上の注意点もその場で話し合い、チーム全体で支援に臨めるようにしている。	非常勤職員や添乗業務などで朝礼に参加できない職員もあり、情報伝達に差が生じることがある。今後は記録の共有方法や情報伝達の工夫を進め、全職員が共通理解をもって支援にあたる環境づくりが課題である。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	1	毎朝の朝礼で前日の支援内容や気づきについて職員間で共有を行っている。朝礼に参加できない非常勤職員に対して、内容を記録に残し、見える化することで情報共有に努めている。	「いいえ」と回答した職員に対しても朝礼記録の共有など工夫を行っているが、全職員が直接意見交換できる場は限られている。今後は非常勤職員も含め、定期的に全員が参加できるミーティングの場を設けることが課題である。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	0	個人ノートを活用し、連絡帳とは別に、子どもの様子に変化が見られた時や支援上の課題が明らかになった時などに、必要な情報を随時記録している。記録を蓄積することで、支援の振り返りや改善につなげるよう努めている。	記録の内容や表現に職員間で差が出ることがあり、情報の一貫性が課題となる場合がある。今後は記録の質を高めるためのフォーマットや指針の整備、定期的な振り返りの場の充実が必要である。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0	法令に基づき、6か月以内に1回のモニタリングを実施し、必要に応じて支援内容や放課後等デイサービス計画の見直しを行っている。日々の記録や支援経過をもとに、子どもの変化や目標への取り組みの様子を柔軟に捉えながら、必要に応じて支援方法や目標の調整を行っている。	モニタリング結果を職員間で共有する体制を強化し、計画の改善がチーム全体で一貫して行えるようにしていくことが課題である。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	0	サービス担当者会議や関係機関との連携会議には、当該児童の支援に日常的に関わっている職員や児童発達支援管理責任者が出席し、実際の様子や支援状況についての確かな情報を共有できるようにしている。	支援に関わる全職員が会議の内容を共有できるよう、記録や口頭でのフィードバック体制を強化することが今後の課題である。必要に応じて文書化の工夫や共有方法の改善にも取り組んでいく。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	0	保育園・幼稚園・子ども園等、他事業所や相談支援事業所等とも月1回以上の情報共有を行い、必要に応じて支援体制の調整を行っている。関係機関との連携を通じて、子ども一人ひとりに応じた適切な支援が提供できるよう努めている。	関係機関ごとに対応の仕方や情報の伝達手段が異なるため、連携がスムーズにいかない場面もある。今後は連絡体制や記録の整理を強化し、より確実な連携支援の体制づくりを進めていく必要がある。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定子ども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	0	通園・通学している保育所や園、特別支援学校等と、保護者の同意のもとで情報共有を行い、児童の様子や支援内容を相互に理解できるよう努めている。卒園・卒業に向けた移行支援についても、できるだけスムーズに環境変化へ適応できるよう段階的な支援を行っている。	関係機関との連携頻度やタイミングにばらつきがあるため、より計画的かつ継続的な情報共有の仕組みづくりが今後の課題である。また、インクルーシブな視点を支援計画に反映する工夫も継続して強化していきたい。

	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	0	就学前には、保護者の同意を得たうえで、進学先の学校と連携を取り、児童の特性や支援内容についての情報を提供している。必要に応じてケース会議等に参加し、学校と共通理解を図ることで、児童が安心して新しい環境に移行できるよう支援している。	学校ごとに連携の取り方やタイミングが異なるため、十分な引き継ぎができないケースもある。今後は、より早い段階からの情報整理や、関係機関との連携体制の標準化を進めることが課題である。
	28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会なども部会や地域子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5	2	地域の児童発達支援センターとの具体的な連携や、スーパーバイズ・助言を受ける体制は整備されておらず、必要に応じた連携機会が設けられていない状況です。一方で、外部研修や法人内研修については職員が積極的に参加するよう努めており、日々の支援に活かすよう取り組んでいます。	児童発達支援センターとの連携体制の強化についても検討し、支援の質の向上につなげていくことが課題と考えています。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他の子どもと活動する機会があるか。	5	2	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流は現在行っていないが、近隣の公園での外遊びや地域行事への参加などを通じて、他の児童との自然な関わりを持てるようにしている。職員も見守りながら、無理のない範囲で交流のきっかけをつくるよう心がけている。	交流の機会が偶発的・短時間にとどまるため、継続的な関わりや相互理解の深化には至っていない。今後は、地域資源やイベント情報を活用しながら、より多様な児童との交流機会を計画的に設けていくことが課題である。
	33	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0	送迎時の対話や連絡帳、電話、SNSなど複数の手段を通じて、児童の様子や発達の状況を日々共有している。小さな変化や家庭との連携が必要な場面でも、すぐにやりとりができる体制を整え、共通理解を深められるよう努めている。	短時間のやり取りや非対面での伝達では、意図が十分に伝わらないこともあるため、定期的な面談の実施や伝達内容の明文化など、より確実な共有体制の強化が今後の課題である。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	2	現時点では体系的な家族支援プログラムの実施は行っていないが、個別の面談や日常的なやりとりの中で、必要に応じて保護者へ情報提供や助言を行っている。今後、必要性が高まった際には、参加しやすい形式での支援機会の提供を検討していく。	家庭支援プログラムや研修の実施には関心があるものの、保護者の参加意欲や時間的制約を踏まえると、継続的な提供が難しい現状がある。今後はアンケート等を通じてニーズを把握し、参加しやすい形式やテーマ設定を検討していく。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	0	契約時の面談にて、運営規程・支援内容・利用者負担について一つひとつ丁寧に説明を行っている。説明後には質疑応答の時間を設け、不明点がないよう確認しているほか、資料もあわせて提供し、後からでも確認できるようにしている。	内容が専門的になりやすく、保護者によっては理解に差が出ることもあるため、今後は視覚的な資料や簡易説明書などを活用し、よりわかりやすく説明できる工夫が必要である。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	0	目標や希望を丁寧に聞き取り、それぞれの思いや状況をふまえた計画を立てている。本人の気持ちや意欲を尊重し、できるだけ支援に反映するよう心がけている。	児童の意思を確認する際、表現が難しい児童に対しては聞き取りが一時的になってしまうことがある。今後は、視覚的なツールや時間をかけた関わりを通じて、本人の気持ちをより丁寧に把握できる支援の工夫が求められる。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7	0	支援内容をわかりやすく説明しながら、児童発達支援計画を提示し、保護者の同意をいただいている。	計画の内容が専門的になる場合、保護者によっては十分に理解しにくいこともあるため、今後は言葉や資料の工夫を通じて、よりわかりやすい説明ができるよう取り組んでいく必要がある。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	0	送迎時や日々のコミュニケーションを通じて保護者の声に耳を傾け、必要に応じて助言や対応を行っている。電話やSMSなども活用し、タイミングに応じて柔軟に連絡・相談できる体制を整えている。	忙しい時間帯での対応が中心となることもあり、じっくり話を聞く時間が十分に確保できないことがある。今後は相談を受けやすい時間や手段をあらかじめ設け、より丁寧な関わりを継続できる体制の整備が課題である。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	6	家庭との連携を大切にし、保護者との個別のやりとりを通じて子育ての情報交換や相談をしやすい関係づくりに努めている。	現時点では保護者会など保護者同士が直接交流できる機会の実施には至っておらず、きょうだい同士の交流も個別対応にとどまっている。今後は二者的の把握や参加しやすい形式の検討を行い、交流の場を設けることを目指していきたい。
40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0	苦情対応の窓口や担当者を運営規程等に明記し、契約時や必要に応じて保護者へ周知している。苦情などがあった場合は、迅速に対応するよう心がけている。	定期的なアンケートや相談しやすい環境づくりを通じて、気づきや要望を前向きに受け止められる仕組みの充実が課題である。	

	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7	0	SNSを活用し、日々の活動の様子や取り組みの概要を写真や文章で保護者に共有している。内容は個人情報に配慮したうえで、子どもたちの様子が伝わるよう工夫している。	SNSを利用できない保護者への情報提供が限定的になりがちのため、紙媒体や掲示物など複数の方法での発信を検討していく必要がある。あわせて、定期的な通信や行事予定のまとめを工夫し、よりわかりやすい発信を目指していく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0	個人情報の取り扱いについては、運営規程に基づき適切に管理している。	定期的に取り扱い方の見直しや職員への再確認を行い、安心して利用できる環境を継続して整備していくことが課題である。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0	子ども一人ひとりの理解力やコミュニケーション方法に応じて、写真や絵カード、視覚スケジュールなどを活用し、わかりやすく伝えるよう工夫している。保護者に対しても、口頭だけでなく書面やSNSなど複数の手段を用い、丁寧な説明と共有を心がけている。	支援の中で日々工夫しているが、特に初めて関わる子どもや新しい職員間での情報の統一に課題がある。今後は、支援マニュアルや個別の配慮リストを整備することで、より一貫性のある対応を図っていく。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	4	現在は行事への招待は行っていないが、近隣施設や地域の関係機関と情報交換を行うなど、地域とのつながりを大切にしている。また、地域の行事や公園活動に参加するなど、子どもたちが地域の中で自然に関われる機会を取り入れるようにしている。	感染症対策や安全面の配慮から地域住民を直接招く行事は実施していないが、今後は地域との関わり方を工夫し、外部に活動を知ってもらう機会創出や、交流のきっかけづくりを検討していく必要がある。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	0	各種マニュアル（事故防止・緊急時対応・防犯・感染症等）を策定し、職員には定期的に確認・共有している。イベントに取り入れ、保護者にもその内容を共有するなど、情報提供を行い、安心して通所してもらえるよう配慮している。	災害や感染症などに関する対応について、家庭と連携した共有の機会を増やすことが課題である。職員への再確認と併せて、継続的な訓練と情報提供を進めていく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	0	業務継続計画（BCP）を策定し、災害時や感染症流行時にも必要な支援が継続できる体制を整えている。職員・児童共に非常時の対応に慣れおけるよう配慮している。	計画と実践との間に差が生じることがある。今後はBCPの内容を定期的に見直すとともに、実際の訓練で課題を振り返り、より実効性のある対策に改善していく必要がある。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7	0	利用開始前の面談時に、服薬状況や既往歴、てんかんの有無だけでなく健康に関する情報を丁寧に確認している。必要に応じて医師の指示内容を共有してもらい、支援時に留意すべき点を職員間で共有して安全な支援につなげている。	情報は初回に確認しているが、体調の変化や新たな服薬があった際の情報更新が保護者任せになりやすい。今後は定期的な確認の仕組みや、保護者との連絡手段の工夫により、より確実な情報把握を目指していく。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	0	入所前にアレルギーに関する医師の指示書の提出や保護者から聞き取りを行い、対象児童の情報は職員間で共有している。調理内容やおやつを選定にも十分配慮し、誤提供を防ぐために確認を徹底している。また、万一来て緊急対応マニュアルも整備している。	アレルギー情報が更新された際の対応に遅れが出ないよう、保護者との情報連携をより密に行う必要がある。今後は定期的な確認の機会を設け、継続的に安全管理体制を見直していくことが課題である。
非常時等の対応	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	0	安全計画に基づき、避難訓練やヒヤリ・ハットの共有、安全確認のための定期的な見回りなどを実施している。新入職員への安全研修や、定期的な振り返りも行い、職員全体で安全意識を高めながら支援を行っている。	訓練の実施が場面に依って形式的になりやすいため、実際の想定に基づいた実践的な訓練や振り返りの精度を高める必要がある。今後は職員間での情報共有と役割分担の明確化を図り、より実効性のある安全体制づくりが課題である。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	0	避難訓練の実施内容や感染症対策、緊急時の対応マニュアルなど、安全に関する取り組みについては、必要に応じて保護者に説明・共有している。SNSや連絡帳等も活用し、安心して通所してもらえるよう情報発信に努めている。	安全に関する取り組みが職員内にとどまり、保護者への周知が限定的な場合もある。今後は、保護者会や通信などを通じて、安全計画のポイントをわかりやすく伝え、家庭とも連携した安全意識の共有を進めていく必要がある。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	0	日々の支援の中で発生したヒヤリハット事例については、速やかに記録・報告し、ミーティング等で職員間で共有している。原因や背景を振り返り、再発防止のための対応策を職員全体で話し合い、支援や環境の見直しにつなげている。	細部の記録は必ず行っている。共有が口頭ベースになることもあり、全員に正確に伝わらないケースがある。今後は様式の統一や掲示・文書による明文化を進め、共有体制をより確実に整えることが課題である。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0	虐待防止に関する研修を年1回以上実施し、児童との関わり方や不適切な対応を防ぐための意識付けを行っている。新人職員に対しても初期研修の中で虐待防止に関する基本的な知識と対応を学ぶ機会を設けている。	日常業務中での見落としや慣れによる判断の甘さが起きないよう、定期的な振り返りやケース検討の実施が求められる。今後は、より具体的な事例を交えた研修や、第三者視点での気づきを促す仕組みの整備が課題である。

	53	<p>どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。</p>	7	0	<p>原則として身体拘束は行わない方針を明確にし、安全確保のためやむを得ない場合に限って、児童の特性や状況に応じた対応を検討している。必要があると判断した場合は、職員間で協議のうえ組織的に判断し、保護者に丁寧に説明・同意を得たうえで、計画にも明記している。</p>	<p>身体拘束に関する基準や判断に曖昧さが残らないよう、職員全体の理解を深める継続的な研修が必要である。今後は倫理的な視点も含めて判断・記録の仕組みを整え、より透明性と適切性のある対応体制を構築していく必要がある。</p>
--	----	---	---	---	--	---